



医と人の心



医学部附属病院長 魚住 徹

平成2年の新年度の初めにあって、新たに医学部附属病院長を拝命し、その重責を果たすべく最大の努力を払うことをかたく決意しております。皆様方の暖かい御支援と厳しい御叱正をお願い申し上げます。

病院とは何か？ 医療とは？ 医師とは？ 申すまでもなく病院の任務は診療であり患者さんを救うことであります。ことのほか、大学医学部附属病院においては医学部及び他学部での研究成果を受けて、医学文明の進歩を医療の場に生かし、日常診療に加えて常により高度ないわゆる先進医療を実行する責務があります。これがまさに大学病院が診療の最先端であると共に教育と研究の場でもあるゆえんであります。

近頃、巷間論議され続けている問題があります。患者の医療・医師への信頼の問題であります。この信頼の欠如が拡大しつつあるという見方があります。これはそうなのでしょうか？

英語で“You are a doctor”という表現があります。「お医者さんである貴方の言われることだから」という信頼を示す表現です。確かに米国などでは医事紛争とか医療訴訟が多発し、医療に深刻な打撃を与えているという見方があります。しかし、一方では上の言葉に示されるように、一般市民は医師を含めた医療従事者に本然的な信頼感を持っていることも事実であると思われます。日本の場合も、古くからの「医は仁術」という言葉に代表されるように、多くの医師が利害損失をはなれ献身的に患者のために尽くしていることはまぎれもない事実であります。

しかしながら、そうであるにもかかわらず、近頃さかんに患者の医療に対する不信感を取り沙汰されるのはどうしてでしょうか。その理由のひとつに医療内容の高度化と複雑化があると思われます。その変化が素朴な感性から見て驚くようなことが医療の中に生じてきているからです。この新しい医学的医療の問題が倫理的問題として取り上げられる理由はまさにここにあると思われます。生物学、理学、工学などにおける文明の進歩が、医学の中に取り入れられて医学文明の進歩がもたらされます。それを現場の医療に応用すればこれまで治すことができなかった疾病に苦悩する患者さんを救うことができる可能性が出てきたのです。これにたずさわる医師は善意に満ちあふれて新しい医学を医療に導入しようとしています。しかし人間の心に急速な変化が直ちには、受け入れられ難い場合もあります。医師は自らの信ずる所をよく説明し、論理で説き伏せるのではなく心で語りかければ、患者さんもその家族も自分の素朴な考え方に従って納得して自らの方向を選択できると思われれます。

このように、私は現今の様相は医療全体に対して本質的な不信が増大しつつあるのではないと思っています。むしろ時代が個人の価値判断の多様性を尊重しつつある方向に動いていることを重視し、本当に力量のある医師が誠心誠意、もっとよく説明し患者の同意と信頼を得るように努力すれば、新しい時代の医学・医療は着実に動き出し定着して行くものと信じます。あらためて「医は人の心を治すものである」と思います。